

令和5年9月7日
世田谷保健所
健康推進課

令和5年度思春期世代に向けたリプロダクティブ・ヘルス/ライツ
周知啓発にかかる取組みについて（中間報告）

1 主旨

「思春期世代に向けたリプロダクティブ・ヘルス/ライツ（※1）周知啓発専門部会（※2）（以下「専門部会」という）での取組みについて報告する。

- ※1 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ：「性と生殖に関する健康と権利」と日本語では訳される。
※2 専門部会：委員名簿は次ページ参照

2 全体像

これまでの専門部会での検討をふまえ、周知啓発の取組みの全体像として別紙1のとおりまとめた。

3 具体的な取組み内容

- (1) 「中高生のためのココロとカラダのトリセツ講座」開催結果について
別紙2のとおり
- (2) リーフレットの作成について
別紙3のとおり

4 今後の主なスケジュール（予定）

令和5年10月31日	教員向け理解促進研修
11月	子ども・若者施策推進特別委員会報告 保護者向けオンライン講演会
12月	第7回専門部会
令和6年2月	子ども・若者施策推進特別委員会報告
3月	思春期世代に向けた情報提供の試行と実践 第8回専門部会 健康づくり推進委員会報告

令和5年度

思春期世代に向けたリプロダクティブ・ヘルス/ライツ周知啓発専門部会委員名簿

(敬称略)

No.	所属	氏名	備考
1	東都大学沼津ヒューマンケア学部教授	松田 正己 ◎	健康づくり推進委員会委員
2	国立成育医療研究センター (周産期・母性診療センター母性内科)	荒田 尚子	プレコンセプションケア
3	明治学院大学社会学部教授	加藤 秀一	男女共同参画・多文化共生推進審議会
4	三軒茶屋メリーレディースクリニック	長岡 理明	世田谷区医師会推薦
5	みくりキッズくりにっく	本田 真美	玉川医師会推薦
6	東京都助産師会世田谷目黒地区分会	岩佐 寛子	助産師会代表
7	NPO法人ピルコン	染矢 明日香	
8	東京都立中部総合精神保健福祉センター	菅原 誠	健康づくり推進委員会委員、 子ども若者協議会思春期青年 期精神保健部会員
9	世田谷区立中学校PTA連合協議会	栄 裕美	健康づくり推進委員会委員 (令和4年6月より就任)
10	世田谷区中学校研究会 学校保健部長	加藤 ユカ	中学校長会 代表 弦巻中学校校長
11	世田谷保健所長	向山 晴子	
12	世田谷保健所 副所長	清水 昭夫	※
13	生活文化政策部 人権・男女共同参画課 長	生垣 明	
14	子ども・若者部 児童課長	寺西 直樹	※
15	世田谷保健所 感染症対策課長	高橋 千香	
16	教育委員会事務局副参事	井元 章二	(学校経営・教育支援担当)

◎部会長

※令和5年度から委員

《全体像》

●思春期世代をとりまく状況

性感染症等の知識不足、知る方法は「インターネット」9割、「友達」2割。

若者世代における梅毒等の性感染症の増大(都の10代梅毒報告数R2年度27件→R3年度63件)

HPV ワクチン接種積極的勧奨の再開

区では高齢出産が多く、特定不妊治療の申請数も多い(R2年度1,455件、R3年度1,924件)。将来のライフプランを適切に選択できるための正しい知識を得る機会が少ない。

区では、10代の望まない妊娠は減少傾向だが、依然として複数例存在。

【中学生の悩みとその背景】※ワークショップより
・性教育の不足、知識・リテラシーの不足
・正しい情報が分からない
・周りとの比較
・社会的な性のタブー視
・相談相手がいない、聞いても解決しない

思春期まずは中学生を対象にする

●区で取り組む意義と必要性

- ・インターネット等により偏った情報が氾濫する中で、思春期世代が、性に関わる重大な事態を予防し、正しい知識や安全な相談先を知ることで、適切な行動がとれるようになる必要がある。
- ・将来の生き方に大きく関わる、妊娠・出産・子育て等の出来事について、自分らしい選択ができるために、思春期世代が自身の生涯にわたる心身の健康を意識し、行動できる必要がある。

●健康せたがやプラン（後期）推進の基本的な考え方

- 1 区民の主体的な行動と継続
- 2 地域での協働・参画と連携
- 3 科学的根拠に基づく施策の展開
- 4 健康に係わる安全・安心の確保
- 5 予防と新たな健康の創造

●計画上の位置づけ

【保健】「健康せたがやプラン(第二次)」(平成24年度～令和5年度)

◆思春期の健康づくり

- 「施策1 主体的な健康管理のための基本的な知識とそれを実践する力の育み」
- ・思春期世代が自分のからだや健康を大切に思う気持ちを育むこと
 - ・健康に関する正しい知識を習得する機会の提供

【人権】「第二次男女共同参画プラン」後期計画(令和4年度～8年度)

◆「性差に応じたところと身体の健康支援」

- ・男女が互いの身体的な性差を理解し合い、子を産み育てることに関わる健康と権利(自己決定権)への配慮、性差を考慮した健康支援の推進
- ・性差や年代によって異なる健康問題に応じた意識啓発や情報の提供
- ・人権教育としての視点を持ち、年代に応じた性教育への取り組み
- ・取り組みの実施にあたっては、多様な性に対しての適切な配慮が取れるよう、職員の理解促進

【教育】「第2次世田谷区教育ビジョン」調整計画(令和4・5年度)

◆乳幼児期から小・中学校における質の高い教育の推進

- ・「道徳」を中心とした道徳教育とともに、教育活動全体を通じた人権教育を推進
- ・性同一性障害や性的指向への理解の促進なども含め、多様性を認め合い、人権を尊重する姿勢をはぐくむ
- ・誰もが心もからだも満たされ、健康でいる権利「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ：性と生殖に関する健康と権利」について、世田谷保健所と連携、普及啓発

●子どもたちの行動目標(案)

行動目標①
からだやこころや性の健康に関心を持ち、正しい知識を得る方法を知っている

行動目標②
からだやこころや性の健康と権利を大切に、健康や安全につながる行動がとれる

行動目標③
からだやこころや性について、悩んだり困ったりした時に、安全なところへ相談することができる

●必要とする情報 R5リーフレット作成

① 思春期の成長と悩み

思春期の体と性の成長
思春期のこころのモヤモヤ、悩み

月経・月経不順・月経時の体調不良と対処、病院受診のタイミング
性欲、マスターベーション、性器の大きさ、射精、包茎 など

②健康なからだところづくり(飲酒・摂食障害・薬物乱用含む)

ポテターイメージ
思春期に大切な食事
飲酒・摂食障害・薬物(市販薬)乱用
自傷行為、命の大切さ

③妊娠・出産の基本的知識

妊娠出産の基本的知識、
妊娠出産の経過(ポジティブに丁寧に)
自分達が大切な存在であるということ

④予期せぬ妊娠、子どもを持つこと

子どもを持つ持たないを自己決定する権利
出産適齢期
予期せぬ妊娠をしないために
避妊と中絶
中絶ができる時期
緊急避妊薬
子どもの命を守ること
里親制度や養子縁組

⑤恋愛と性的同意、性感染症予防

恋愛と性、性的同意の尊重
恋愛とコミュニケーション
性交
性感染症の症状と予防
不妊との関係、ピルとの関係
HPV ワクチン接種と性感染症予防クリニックとの連携

⑥性自認、性の多様性、

多様な家族
多様な性
LGBTQ、性的指向や性自認
同性カップル、ステップファミリー、国際結婚とその子ども

⑦性情報との関わり方、安全な情報源と相談先

性被害に合わないために
信頼できる情報サイト
性情報の見分け方
安全な相談先(保護者も必要)

R5 中高生のためオンライン講演会

●子どもたちを支える環境づくり【保護者・行政・学校・地域】～話せる場所・機会

※養護教諭アンケート、ワークショップより

～家庭だけでなく、身近な学校・地域全体で、包括的性教育を、当たり前伝えていけるよう、世田谷区に先例自治体になってもらいたい。

保護者

中学校
養護教諭・担任・スクール
カウンセラー・外部講師

地域の行政機関
児童館・青少年交流センター等

地域の
医療機関等

第三者の
相談窓口

保健所等からの啓発事業

R5 保護者向けオンライン講演会

R5 講演会ちらしの周知
教員向け理解促進研修

R5 講演会ちらしの周知
リーフレットの配架

R5 リーフレットへの
相談機関の掲載

「中高生のためのココロとカラダのトリセツ講座」開催結果について

1 目的

思春期世代である中高生が自身の悩みへの向き合い方を学び、自身や周囲の人たちを大切にしながら行動できるよう、リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する正しい知識を得る機会とする。

2 開催日時

令和5年8月1日（火）14時～15時30分

3 開催方法

オンライン・無料 ※参加者の立場が守られる体制とした

- ・ニックネーム、画面オフでの参加可
- ・オンライン上での参加者同士のやりとりは不可

4 参加者

66名（申込者94名）

参加者内訳：中学生・高校生（保護者を含む）56名、区職員等10名

5 講座内容 ※一部抜粋。途中、個人ワークの時間もあり。

(1) いろいろな性のあり方

- ・なぜ中学生はモヤモヤするんだろう？
- ・「性」ってなに？いろいろな性のあり方

(2) からだとこころの変化

- ・自分のからだ、どう思う？「自分の体が好き」と思えるようになるには？
- ・こんな広告見たことある？
- ・思春期は大人へと近づく変化の時期、男子の思春期に起こること
- ・月経のトラブルで病院に行くタイミング
- ・性行為によって起こる可能性がある問題（妊娠・性感染症）
- ・妊娠したかどうか確かめるには？妊娠のあと、どんな選択肢がある？
- ・子どもを育てていくために必要なことは？
- ・子どもを持つことを望む？いつ？望まない？
- ・性感染症って？感染するとどうなるの？性感染症になる可能性を減らすためには？
- ・子宮頸がんをどう防ぐ？

(3) 恋愛・人間関係について

- ・人にはみんな「境界線（バウンダリー）」がある
- ・ココロとカラダが自分らしく、安心して過ごせているサインは？
- ・恋や愛ってなに？どんな気持ちになること？
- ・性的同意（セクシャル・コンセント）とは？同意がとれていないのはどんなとき？

- ・相手の気持ちを確認するには？自分の気持ちを伝えるには？
- ・もし自分が望まない性的な行為をされた場合は？
- ・もし身近でデートDVかもと思ったら？
- ・健康的な人間関係とは？お互いに大切にしよう人間関係に必要なことは？
- ・みんなが接している性情報、本当に正しい？
- ・SNSについて悩んだときは「こたエール」（東京都相談窓口）
- ・もっと知りたい人におすすめの情報

6 講師

NPO 法人ピルコン 染矢明日香 氏

7 周知方法

- ・事業ちらしの配架（区立中学校、区内国立・私立中学校、高等学校、青少年交流センター、若者の居場所、児童館、図書館）
- ・「すぐーる」による区立中学校生徒の保護者へのメール配信
- ・区議会ポスティング
- ・区公式ツイッター、区ホームページ、区のお知らせ
- ・「情熱せたがや、始めました。（ねつせた!）」による配信
- ・庁内連絡による区職員の募集

リーフレット作成について

1 対象

中学生

2 掲載の考え方（初版）

- ・全16ページ。
- ・掲載項目を絞る。
- ・より解説が必要な項目は、コラムで掲載する。
- ・現場の反応や状況を見て、第2版以降、項目の追加や内容をバージョンアップしていく。
- ・掲載項目
思春期のココロとカラダ、妊娠のしくみ、性感染症、性的同意、相談先・情報入手先など

【専門部会における主な意見】

(1) 構成について

- ・原則論や「お説教」的なものではなく、読まれる工夫が必要。
- ・教科書と変わらない印象を避ける。
- ・文字や情報量を多くせず、キーワードを整理して絞った方がよい。
- ・全体的にイラストを入れ、中学生が受け止めやすいものにするべき。
- ・現代の中学生は、インターネットで調べるよりも YouTube で解説している動画を見て調べものをする。動画を作るのも一つの手段だと思う。
- ・若者の性感染症が急拡大している状況に十分留意しながら作成する必要があり、教科書を超える範囲の内容も含めることが必要。
- ・「性的に嫌なことをされたら」という表現では分からない中学生もいるので、それはどのような行為なのか、具体的に書く必要がある。
- ・女子に偏ることなく男子生徒向けの情報の掲載も必要。
- ・性教育は人権教育である。自分の体は大事なものであり、だからこそ相手の体も大事にできるという根底の考え方にに基づき、ひとり一人が大切な存在ということを強調したい。
- ・性別に関する記載には配慮が必要。
- ・保護者の方とも一緒に読んでもらえる内容や「おうちの人とも話してみよう」というトピックがあってもよい。

(2) 個別の項目について

- ・HPVワクチン接種の積極的勧奨も始まり、記載があった方がよい。
- ・中学生に多い市販薬の乱用、摂食障害、緊急避妊薬、中絶が可能な期間や方法、インターネットとの付き合い方等も載せられるとよい。
- ・恋愛やお付き合いの仕方の方が中学生にとって身近なのではないか。

- ・「SNS で波長の合う年上の男性と付き合い、性的に求められても NO と言えない女子」という構図の事例が多く、そうした状況に役立つ内容だとよい。
- ・中学生はまだ家族の中で子どもとして存在している。将来に向かって妊娠・出産を考えることより、今切迫しているのは、自分がどういう家族の中にいるのかということ。様々な家族があって、世の中の典型や標準から外れた家族の中で育てている子どももいる。中学生として、子どもとして、悩む面に応えたい。
- ・子どもの権利条約の説明があった方がよい。
- ・リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは何かの説明があった方がよい。

(3) 相談先・参考情報について

- ・相談先は、手法（電話・メール・チャット等）や相談できる内容について簡単でも紹介があったほうがよい。
- ・本格オープン予定の東京都サイト「東京ユースヘルスケア」を掲載する。
- ・サイトだけではなく、参考文献として、本や冊子についても紹介できるとよい。

3 活用方法（案）

試行段階では解説等があった方が望ましいことから、以下を想定している。

- ・区立中学校での産婦人科医や助産師による事業等での活用（希望者）
- ・区立中学校の養護教諭による保健室での活用（希望者）
- ・生涯学習課が実施する家庭教育学級での P R
- ・国立・私立中学校への案内
- ・青少年交流センターや「らぷらす」での事業等での配付
- ・区ホームページでの案内

【専門部会における主な意見】

- ・配付物はひとり歩きするところがあるため、配付方法については工夫する必要がある。
- ・性に関する内容は、子どもたちにどのように教えたらいいかわからないという保護者や教員が多い印象があるため、まず保護者や教員への配付から始める方法もある。

4 活用時期

令和6年3月～

5 印刷部数（初回分）

1,000部

6 その他検討事項

内容に関する助言や監修について